

子宮がん検診を受けられる方へ

★子宮がん検診を初めて受けられる方は、特によくお読みください。★

子宮頸がん（しきゅうけいがん）ってどんな病気？

子宮頸がん（しきゅうけいがん）とは子宮の入り口にできるがんです。初期では無症状のことが多く、進行するにつれて不正出血などの症状がでます。

子宮頸がんは遺伝などに関係なく、性交経験がある女性なら誰でもなる可能性のある病気です。

子宮頸がんはその他のがんと異なり、原因が解明されており、ほぼ100%がヒトパピローマウイルス（HPV）というウイルスによる感染が原因とされています。

子宮頸がん細胞は、原因となるHPVの感染から5～10年かかって増殖すると言われています。

定期的に受けていれば、がんになる前の段階で診断することができます。

近年では20代後半から30代に急増、若い女性の発症率が増加傾向にあります。

受けていただく上での注意

子宮頸がんは性行為によるHPV感染が原因と分かっておりますが、経験がない方でも、がんだけでなく子宮筋腫や卵巣嚢腫を見つける機会になります。

また、性交経験がない方は内診や細胞診により出血の恐れがありますので、**受診の際には、必ず婦人科医にお申し出ください。**

子宮がん検診の流れ

下記のような流れで行います。時間はだいたい5～10分程度です。

1 問診

初潮年齢や生理の様子、妊娠・出産の経験の有無、月経の状況、自覚症状の有無、などについて問診票に記載していただきます。



2 検診（内診）

下着を脱いで内診台にあがり、腔鏡を挿入し子宮頸部の状態を目でみて確認（視診）し、子宮頸部の状態を観察します。

次に、やわらかいヘラやブラシのようなもので子宮頸部の粘膜をなでるように細胞を採取します。まれに少しの出血がみられることがあります。

内診では、子宮の形、大きさ、位置、表面の状態、炎症の有無などをおなかを押さえて触診します。

⑧ 内診台はカーテンで仕切られているので、内診を行っているときに医師と顔を合わせることはありません。

また、採取した細胞は、顕微鏡で観察し、細胞診を行うことでがん細胞になる前の段階から診断することができます。

4 検診終了

後日、検査結果を書面で、ご報告いたします。

